

T22失敗事例研究会

2022年 5月 28日

派生開発推進協議会 T22研究会

工藤 寛

T22はどんな研究会?

XDDP 導入失敗事例集

XDDP2014 T22 限定

2014 年 10 月 28 日

派生開発推進協議会

目次

まえがき.....	3
挫折からの出直し.....	3
「自分には、この仕事は向いていない」.....	3
これは「保守」では対応できそうもない.....	4
CMM との出会い.....	5
派生開発推進協議会(AFFORDD)の立ち上げ.....	7
導入の失敗.....	9
1. 変更 3 点セットを書いているのに組織の誰もレビューに参加しない。.....	9
2. 変更 3 点セットに対するレビューに存在しない“有識者”を求めている。.....	9



XDDP 導入を成功に導く処方せん
小冊子 (ver.2.0)

2021 年 8 月 21 日

派生開発推進協議会

T22 研究会



処方せん第2版の案内

AFFORDD 派生開発推進協議会
Association For Facilitation Of Rational Derivational Development

AFFORDD.JPへようこそ

派生開発推進協議会(AFFORDD: Association For Facilitation Of Rational Derivational Development)は、今日の開発の殆どを占める派生開発が効果的に行なわれる技術の開発や普及、更にはそれによって得られた「余裕」により、新たな技術の獲得や革新が進む状態を作れるよう後押しすることを目的に設立された非営利団体です。

READ MORE



知る

AFFORDDでは、年1回のカンファレンスを始め、さまざまなイベントを開催しています。



調べる

AFFORDDでは、派生開発関係の資料や研究成果をライブラリにまとめています。



参加する

AFFORDDでは、随時会員を募集しています。会員になると、研究会や勉強会へ参加することができます。

T22：失敗事例

中部部会

関西部会

イベント分類

T22：失敗事例

2022年4月12日 派生開発カンファレンス2022

【派生開発推進協議会 研究会・部会発表】

イベント名 派生開発カンファレンス2022 時間 13:40~14:30 概要 「USDM」のリスク管理への応用(T13研究会) 失敗事例(T22研究会) 中部部会 読書会

2021年8月21日 T22：失敗事例

【T22研究会活動成果】 XDDP導入を成功に導く処方せん小冊子

分類 研究会活動成果 研究会 T22研究会 失敗事例 概要 T22研究会ではXDDP導入に対する失敗事例にこそ多くの教訓があると考え、清水さんが現場指導をしながら書きとめていた失敗事例をもとに、XDDPの導入/定着に

分類	研究会活動成果
研究会	T22研究会 失敗事例
概要	T22研究会ではXDDP導入に対する失敗事例にこそ多くの教訓があると考え、清水さんが現場指導をしながら書きとめていた失敗事例をもとに、XDDPの導入/定着に失敗しないための研究を行っています。 研究の成果として、新規導入の際に導入や定着の失敗に至るような問題が発生した場合、対応策、再導入にあたって前回の導入の失敗を繰り返さないための施策/予防策を小冊子にまとめました。

■XDDP導入を成功に導く処方せん小冊子_v2.0

affordd-t22_v2.0_2021081 ダウンロード

XDDP 導入を成功に導く処方せん小冊子 (ver.2.0)

2021年8月21日

派生開発推進協議会
T22 研究会



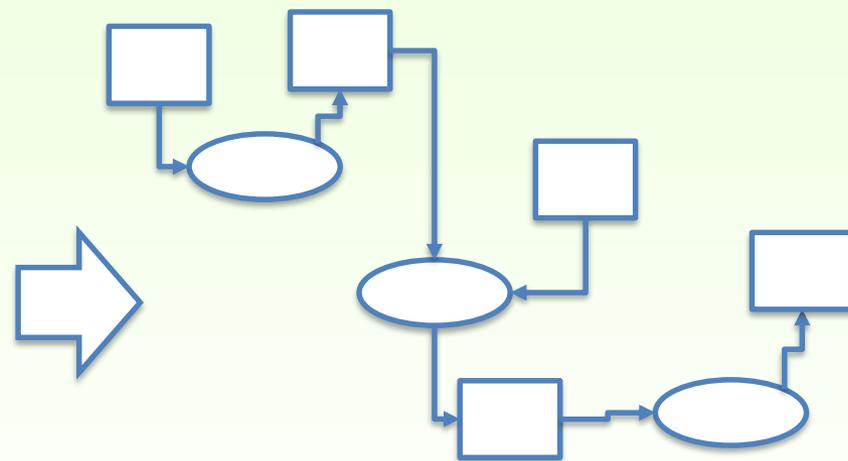
現在の活動内容

- 処方せんの新しい活用方法の検討
- 今までの使い方
 - 問題が起こってから活用
 - 症状毎の予防法の紹介
- 事前に病気にならない為の予防プロセスや、病気になった場合の治療プロセスを示せないか？

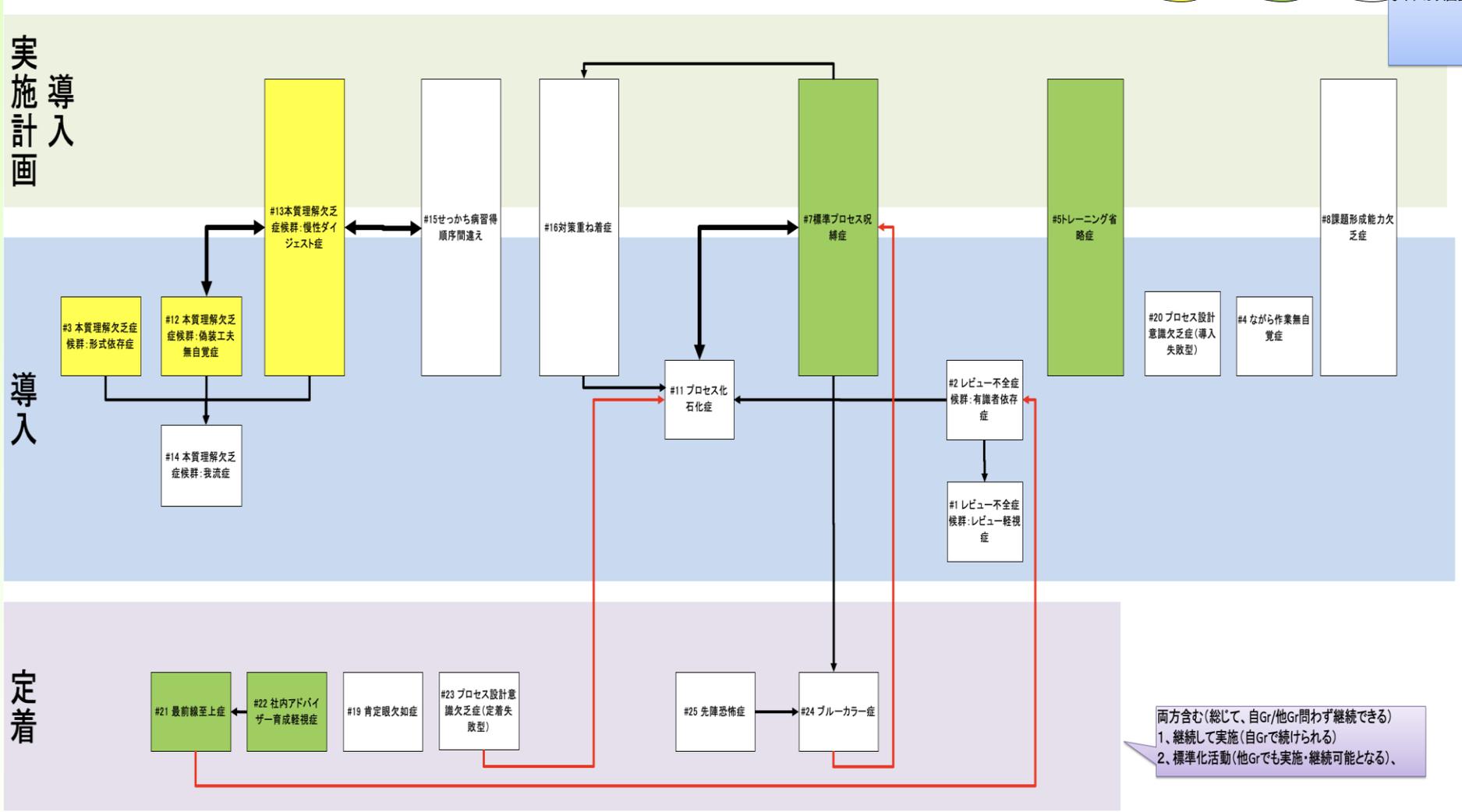
治療の処方せん

病名	有識者依存症候群 (#2)	
発症者	開発者 管理者	
症状	レビューに存在しない“有”を求め、レビュー確認漏れが多い。 ・レビューで有効な指摘がない理由を有識者不在としている。 ・レビューの問題を有識者とし、それ以上の深堀がない。 ・レビューで問題の指摘が繰り返される。	
治療法	<開発者> ・“有識者”でないときもレビューできる範囲を確認 ・レビュー範囲を手分けしに依存しない状態にする ・レビュー漏れなどのエラー	
	生活習慣	分類 価値観不良 説明 異文化の理解ができていない・組織不良・安全意識不良など 組織が持つルールの遵守に因われている、自らの価値観を疑おうとしない。 原因となる行動パターン エンジニアとしての自覚と基礎知識修得に対する取組みが消極的。標準プロセスを改善していくという意識の欠落。
	発症者	管理者
	予防可能な病名	・ながら作業無自覚症候群 ・プロセス設計意識欠乏症候群（導入失敗型）
	予防法	<共通> ・新たな手法/技法を手に入れるためには、ソフトウェアエンジニアリングの理解は不可欠であることを認識しましょう。（基礎知識がないのに、応用知識は理解できない） ※「基礎」には、現状の作業（プロセス）を表現することが含まれます。 ・標準プロセスは要件や時代の変化と共に変化するものと認識しましょう。 <ながら作業無自覚症候群> ・管理者自身がエンジニアとしての自覚を持つことが重要です。エンジニアであるということは、今より良くなる何かを求める探求心を持つということです。 ・ソフトウェアエンジニアのブルーカラー化（言われたことしかやらない）を防

予防の処方せん



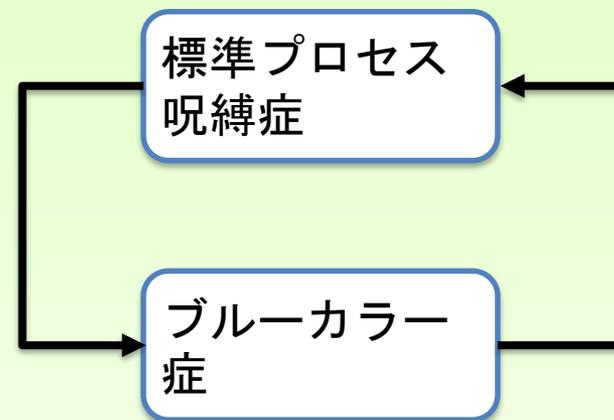
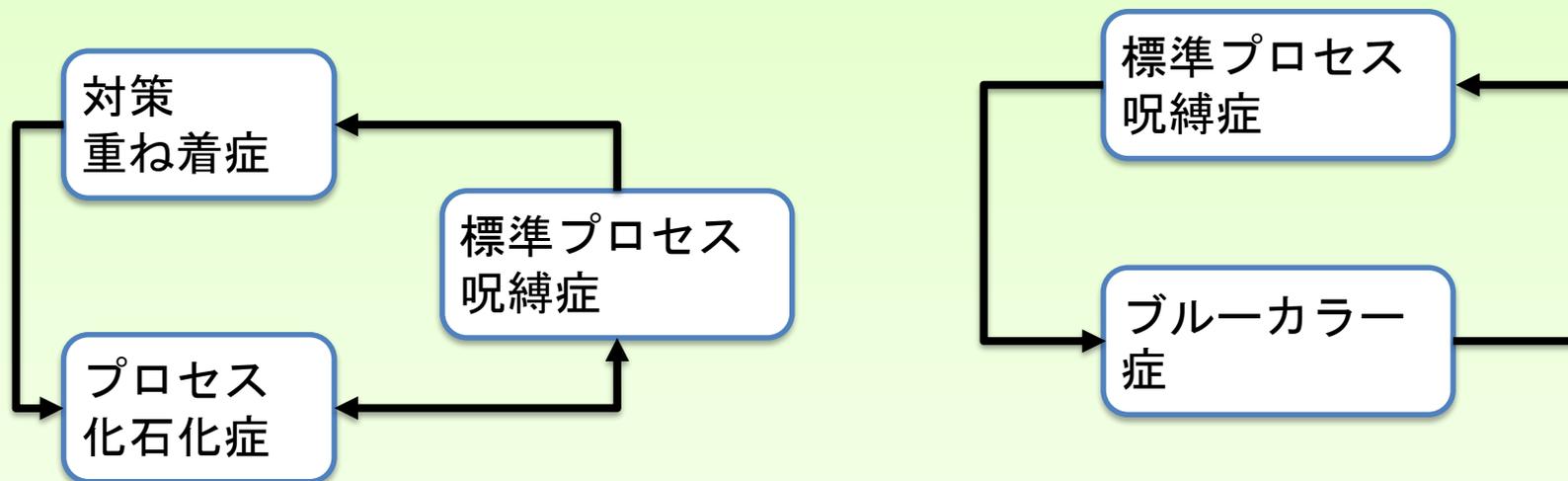
処方せん観点でまとめてみました



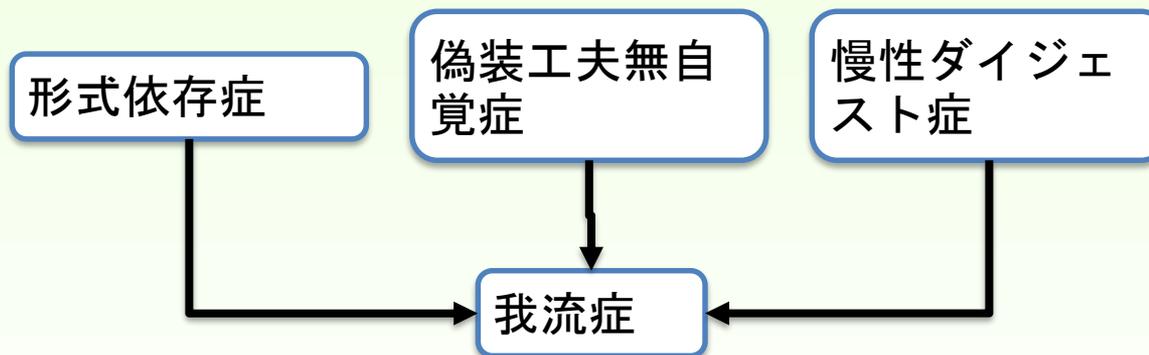
両方含む(総じて、自Gr/他Gr問わず継続できる)
1、継続して実施(自Grで続けられる)
2、標準化活動(他Grでも実施・継続可能となる)、

見えてきたもの

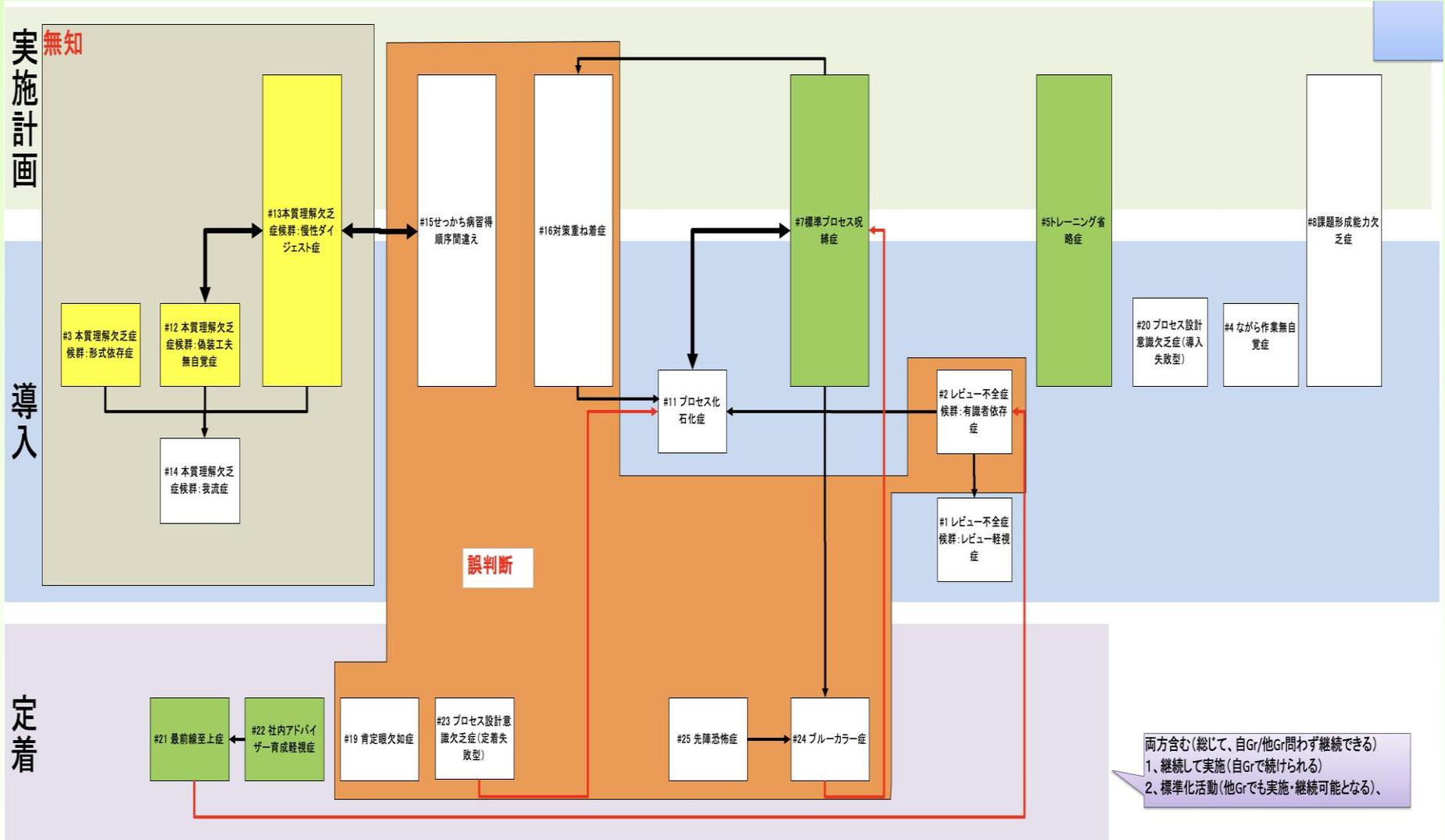
・ 負のスパイラル



・ 集中している



予防法をまとめてみました



最後に

- 一緒に研究に参加していただける方を募集中
- メンバー紹介
齋藤(芳)さん, 梶本さん, 葛西さん, 野沢さん, 工藤
- 月1回程度のオンライン会合開催
- 年1回程度の合宿

